授業科目　小児発達保健論

【担当教員名】	対象学年	2	対象学科	看護
岩田みどり・松井由美子	開講時期	後期	必修･選択	必修
	単位数	1	時間数	15

【<概要>又は<一般目標：ＧＩＯ>】
本科目では、健康問題を持つ子どもと家族への看護を、２つの異なった発達段階の対象の事例を用いて理解を深める。学習方法としては、ＰＢＬ（Ｐｒｏｂｌｅｍ－Ｂａｓｅｄ－Ｌｅａｎｉｎｇ）を用い、グループ単位で事例に必要な看護計画の立案を目標に学習する。学習に当たって、テューターが４回参加し、グループの学習をサポートする。（小児保健論の、子どもの権利条約、関連法規、小児保健対策、予防接種については、小児看護学の講義で修得する。）

【<学習目標>又は<行動目標：ＳＢＯ>】

1．子どもの健康問題と治療の経過を説明する。
2．子どもと家族の発達の特徴を説明する。
3．身体的・心理社会的両面から看護問題を討議する。
4．看護問題の根拠を討議する。全体像に図式化する。
5．事例に必要な看護を討議する。
6．学習過程を整理し、学習できたこと、残された課題を表現する。
7．グループ学習に主体的に参加・協力する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO番号	学習方法･学習課題又は備考･担当教員
1	ＰＢＬ　事例１：川崎病をもつ３歳の子ども	1～7	ＰＢＬ　岩田みどり・松井由美子
2	ＰＢＬ　事例２：白血病をもつ１４歳の子ども		
3	ＰＢＬ		
4	ＰＢＬ		
5	ＰＢＬ		
6	ＰＢＬ		
7	ＰＢＬ		
8	ＰＢＬ		
	ＰＢＬの進め方 1．各メンバーが調べた学習項目をプレゼンテーションし、事例の看護問題・ニードを予測する。（例えば、アセスメントガイド活用して情報を整理してみる。または、問題の根拠を討議し、全体像を検討するなど） 2．グループ全員で事例の全体像を一つに整理し、看護問題の優先度を決定する。 3．看護問題に必要な看護介入を検討する。または、看護援助の一部を演習する。 4．課題シートから、学習項目を抽出する。７回の学習計画を立案し、学習目標を決めておく。		

【使用図書】	<書名>　<著者名>　<発行所>　<発行年･価格･その他>
教科書（必ず購入する書籍）	
参考書	
その他の資料	

【評価方法】	【履修上の留意点】
筆記試験40% 学習内容40% 参加態度20%	初回に説明する。

看護学科専門